

第1回新潟市東区外国籍市民懇談会 概要

日 時：平成25年11月30日（土） 午前10時～正午

場 所：東区役所 1階 会議室B

出席委員：7名

海津 裕子（コーディネーター）、ウィルソン ベーブン（公募委員）、
権 英秀（公募委員）、戴 焯（公募委員）、中森 リン（公募委員）、
ニコラス サラ（公募委員）、モーセン イムラン ウルハク（公募委員）

事務局：金子国際課長補佐、宮島係長、畑副主査、廣田主事

傍聴者：3名

意見の概要

1) 外国籍区民の仕事と生活について

- ・ 就職が困難。日本語に問題がなくても外国人だとわかると採用しない事業者が多い。
- ・ 外国人、留学生を対象とした求人情報があればよい（求人サイトなど）。
- ・ 留学生がアルバイトをするために必要な「課外活動許可書」（事務局注：資格外活動許可書？）を取得できる場所と機会が少ない。市役所や区役所で手続きができればよい。
- ・ 留学生が卒業して学生の身分を失うと、保証人を立てて賃貸物件を借りることが難しくなる。保証会社の利用は金銭面での負担が大きい。
- ・ 公共の制度（特に税金）についてもっと周知してほしい。
- ・ 職場で日本人の同僚とコミュニケーションの取れる環境がほしい。
- ・ 公共交通機関（特にバス）が不便。表示がわかりにくく、本数や停留所も少ない。
- ・ 日本語で難しいのは漢字と敬語。日本に長く住んでいても特に読み書きが難しい。
- ・ 日本語を習得した外国人が同じ国の人に日本語を教える取り組みがあればよい。日本人が教えるよりも理解が深まる。
- ・ 学校では、宗教的な理由で食べ物に制限のある児童への給食メニューの個別対応をしてもらえない。

2) 地域コミュニティと外国籍区民との関わりについて

- ・ 外国人に対してゴミ出しなどの地域のルールの説明が不十分。説明不足が軋轢につながる。
- ・ 外国人にもメディアで地域の情報を伝えてほしい。また、オンラインで文字情報だけでなく映像による情報を流すと効果的だと思う。
- ・ 日本人の友人や知り合いがいなければ地域の情報の入手が難しい。
- ・ 公民館などの公共施設に誰でもネットが使えるPCがあればよい。来日したばかりの外国人にはネット環境がなくて必要な情報を集めにくい。
- ・ 外国人と地域が交流できるような場の情報提供がほしい。
- ・ もっとお互いの理解を深める交流の機会がほしい。
- ・ 外国人についての偏った報道が気になる。
- ・ 自国との生活環境の違いにとまどう（駐車場など）。

●出された課題を整理し、第2回懇談会（1月下旬開催予定）では、市から具体的な例、提案を示すことになった。